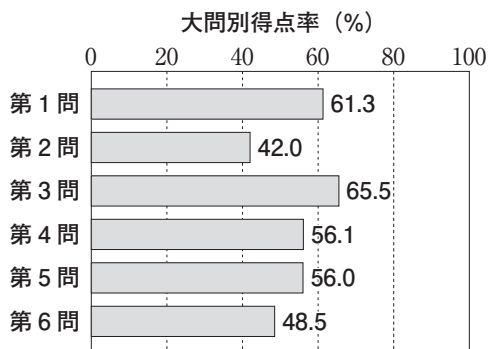
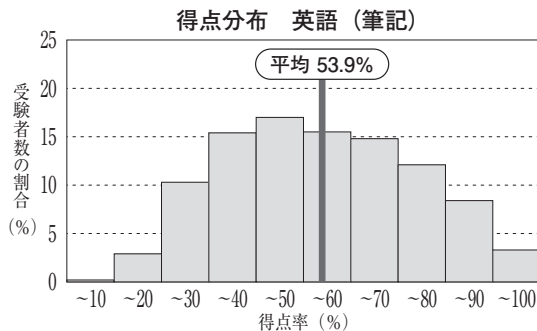


## 英語 (筆記)

できるだけ多くの英文を読み，語彙力強化を図ろう。

## I. 全体講評

今回のセンター試験本番レベル模試の平均点は107.8点で，前回と比べると微増であった。この時期としてはまずまずの点数ではあるが，いろいろな面で改善の余地があるようだ。受験生に共通する大きな課題には，まだ時間的な余裕があるうちに取り組んでほしい。そうした課題の1つは語彙力の強化であろう。今回は第2問と第6問の得点率が低かったが，注目されるのは終盤の無回答率が高くなったことである。第5問では2%～3% 台前半だったが，第6問では3% 台後半から6% 台にまで及んでいた。終盤は時間的な余裕を失っていたということであろうが，これは当然英文を読んで理解する速さを反映し，そして読む速さは語彙力と直結している。毎年のことであるが，この問題は時間とともに徐々に解消されていくであろう。しかし，そのための意識的な努力は不可欠である。ぜひ多読を通じてレベルアップを目指してほしい。



## II. 大問別分析

## 第1問 発音・アクセント

基本を徹底復習しよう！

今回の第1問の得点率は61.3%で，平均的な出来であった。内訳を見ると，Aの発音問題の全体平均が57.4%，Bのアクセント問題が64.2%と，発音問題が少し低かった。小問別の正答率では，50%を下回った箇所がA，Bに1つずつあり，それほど極端ではなかったが，Aの問1の32.5%がやや足を引っ張った格好である。これは母音aに関する問題で，短母音となる⑨relativeが正解であったが，正答率は伸びなかった。おそらく，これは動詞relateが二重母音であるために混同した結果かもしれない。発音・アクセント問題を苦手とする受験生は，音声を活用して音読を徹底し，なるべく早いうちに苦手意識を払拭してほしい。

## 第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

文法力の不足がネックになっていた。

今回の第2問の得点率は42.0%で，すべての大問の中で最も低かった。内訳は，Aの文法・語法・語彙問題が38.1%，Bの整序問題が48.7%，Cの応答文完成問題が41.7%だった。今回目立ったのはAの最後の3問で正答率が10%台から20%台に終わったことである。ここでは空所が2つ設けられているので，まず全体の文意を的確に想定し，主に文法の知識を頼りにそれに適合した形にまとめることが求められる。今回の誤答の選択率を見ると，まだまだ文法力が不足しているようだ。また，Cの応答文完成問題にも正答率が20%台の小問があったが，ここでも鍵を握るのは文法力である。文法の知識は第2問全体の成績に大きく影響するだけでなく，読解問題征服のための基盤を成すものである。この分野に不安のある人はぜひとも早いうちに対策を講じてほしい。

**第3問 文脈把握 (対話文空所補充・文削除・要約)****全体的に安定して得点できていた！**

今回の第3問の得点率は65.5%で、すべての大問中最高の成績だった。内訳を見ると、Aの会話問題の平均正答率が74.7%で、不要文削除のBが57.5%、意見の要旨を選ぶCは68.2%と、総じて安定していた。小問別の正答率を見ても、Bの2問目がわずかに50%を割った以外は、いずれも50%台から70%台の範囲内で、バランス的には申し分ない。どのパートについても、間違えた箇所があれば、各自で解説を参照しながら見直してほしい。ここでは、会話、説明文、意見発表など、様々な種類の文が素材となっているが、どの形式であろうと試されているのは文脈把握力であり、それは日頃の読解作業を通じて養う他はない。

**第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り****センター試験特有の設問形式に慣れておこう！**

今回の第4問の得点率は56.1%で、平均的な成績であった。図表を含む説明文を素材としたAについては、全体の平均が51.8%、広告文書を素材としたBは61.8%だった。Aの間4の正答率がおおよそ32%にとどまったのが少し影響した。この箇所は最終段落に続くべき内容を推測させる設問で、数年前から登場したセンター試験特有のものである。他の設問では細部の情報の読み取りが求められるのに対し、文全体のテーマを答えるAの間3とこの間4では、文の流れをつかむことが解答の前提となる。過去問や本模試を通じて十分に習熟しておきたい。

**第5問 物語文の読解****今後はさらに上を目指してがんばろう！**

今回の第5問の得点率は56.0%で、やはり平均的な成績であったが、特別読みにくいストーリーではないので、もう少し上の結果でもよかったのではないだろうか。これはおそらく解答時間に余裕がなくなってきたせいかもしれない。例年のことであるが、このあたりから無回答率が徐々に高くなっていく。落ち着いて考える時間があれば、違った結果になっていたはずである。終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答できたかが問われることになるだろう。

**第6問 説明的文章の読解****時間配分を考えて全問解答を目指そう！**

今回の第6問の得点率は48.5%だった。50%に満たなかったとは言え、この大問としては極度に不振というわけではない。最後の問題となるこの大問では時間的制約の影響が最も大きい。無回答率は3%台から6%台にまで及んでいた。例年言えることであるが、まだこの段階では全問を解くだけのスピードが身につけていない人が多い。そして、全問マークをした人であっても、確信を持ってない解答が多かったのではないだろうか。時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。今後効率のよい解き方を覚えるにつれて、この最後の大問でも得点を伸ばしていくことが期待される。

**Ⅲ. 学習アドバイス**

今回は第3問について述べておこう。この大問はA、B、Cの3つのパートからなり、それぞれタイプの違った素材文を用いているが、いずれも文脈把握力を試すのが出題の狙いである。Aの場合は、短い対話文を読んで、空所を埋める設問である。短い英文とは言え、文の流れをつかむことは正解を得る大前提である。人物関係や状況をしっかり押さえた上で、空所前後の発言の意味を十分考慮しなければならない。会話文特有の言い回しも多く含まれるので、長文同様に読み慣れが欠かせないだろう。過去のセンター試験はもちろん、類似問題には数多くあたっておきたいところである。説明文を用いたBでは、よりオーソドックスな形で文脈把握力が試される。ここではパラグラフ内の不要な一文を答えるわけだが、英文素材は説明文タイプなので、論理を追っていけば比較的答えやすいと言える。こうした問題にうまく対処するには、パラグラフ内の一文一文のつながりを日々の学習でも努めて意識するようになる必要があるであろう。Cの場合は、複数の発言者による意見発表というスタイルをとって、素材文が示されている。ここではどちらかと言えば細部を総合し、話者の発言の全体的な主旨を理解したかどうかを試すものである。これも普段の習慣が大切で、まとまった量の英文を読む際には、パラグラフ単位の主旨をつかむことを心がけてほしい。